

ん出てくる。

一方、集落での獣害対策講習会だけでなく集落の寄り合い参加者も男性だけのところもあってちっとも対策が進まない。案外知られてないけど、世界経済フォーラムが行った調査では、SDGsの認知度は先進28か国で最下位、そして女性差別程度を示すジェンダーギャップ指数2020は世界153か国中121位(前回は149か国中110位)なんだな。

集落の半数は女性なのに男社会って優秀な人材の半分しか使っていない社会でしょ。掃除、洗濯、炊事、育児みたいに先送り絶対できない家事は女の仕事っていう偏見が

いまだに根強い。だから自分で動けばすぐできる獣害対策も先送り。手に負えなくなったら行政だよりの男社会の行政も実績つくりの補助事業でやってるフリ。

悪いのはイノシシじゃなくて餌付けした自分達っていう意識改革がなかなかできない。問題解決を阻害しているのは男社会だからって教えてくれたのはイノシシ。

それで辛抱できずに

2014年に「女性がやればずんずん進む獣害対策」って題の獣害対策本を書いた。そうしたら翌2015年9月、国連で193か国首脳が合意してSDGs(持続可能な開発目標)が採択された。

17のゴール目指して取り組む課題の5番目が男女平等。でも、女性格差、日本はちっとも改善されないで途上国にもどんどん抜かれてる。理由は日本が男の論理で構築された「建前」「したフリ」「責任逃れ」の蔓延した社会だから。

イノシシが教えてくれた全国に構築された目に見えない強固な壁に立ち向かい大崎町が突破口を開いてくれることそして町民みんなのご健康を祈ってます。

コロナなんか絶対に、絶対に負けないでね。



▲ SDGs のロゴ

### ■ 鳥獣害対策のおさらい

#### ステップ①

みんなで勉強

野生鳥獣の生態や鳥獣による被害状況等を、地域みんなで学習し、情報を共有しましょう。



#### ステップ②

守れる集落・田畑

野生鳥獣が餌場と認識しにくい集落や田畑へ環境を改善しましょう。



#### ステップ③

電気柵の設置や追い払い

トタン柵や電気柵を設置して野生鳥獣の侵入を防いだり、ロケット花火等による追い払いで被害を止めましょう。



#### ステップ④

個人で無理なこと...

補助事業を活用した、地域全体を囲むワイヤーメッシュ柵設置や猟友会等による有害鳥獣の捕獲対策。



雅ねえには当初1年の予定が2年間、『広報おおさき』へ執筆していただき感謝申し上げます。また、県主催で曲集落を中心に現地での指導も賜り、住民の鳥獣害に関する知識と自己防衛意識が高まってきたと認識しております。今後、その教えを活かし、大崎町の目指すゴールに向かって、しっかり進んでいきます。数々のご教示、ありがとうございました。



獣害対策をきっかけに持続可能な大崎町を期待してるからね



### 講師紹介 井上 雅央 氏

1949年、奈良県出身。愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士(農学)。元農研機構 近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長。退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。著書に、『これならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハダニ』『女性がずればずんずん進む獣害対策』(いずれも農文協)など多数。

